2Kp-4　社会生活場面における着装規範に対する着装行動要因の影響

○内藤　章江　　小林　茂雄　　（共立女大）

＜目的＞　私たちは様々な生活場面において衣服を選択し、着用している。しかし、各場面には衣服の着用に関する暗黙のルールが存在していると考えられる。そこで、社会生活場面における着装規範を明らかにするために、社会生活場面における着装行動の調査を行った。また着装規範に対して、着装行動の要因として考えられる場面イメージ、着装基準の重視度の影響についても検討した。

＜調査及び解析方法＞　調査は質問紙調査法により 2000 年 10 月～ 2001 年 1 月に行った。調査対象者は女子大学生 99 名、男子大学生 51 名、熟年女性 53 名、熟年男性 52 名の計 255 名である。調査内容は 10 の社会生活場面に対するイメージ（10 形容詞対、SD 法による 5 段階尺度）、着装行動（15 項目、4 段階尺度）、着装基準の重視度（15 項目、4 段階尺度）である。解析は、因子構造の確認に因子分析（主因子法、バリマックス回転）、被験者属性の影響の検討に分散分析、各要因の影響を検討するために重回帰分析を用いた。

＜結果及び考察＞　因子分析の結果、場面イメージは「フォーマル性」「華やかさ」の 2 因子、着装行動は「社会的調和と規範」「自己アピールと流行」「実用性」の 3 因子、着装基準の重視度は「被服デザインと印象」「実用性」の 2 因子が抽出された。分散分析では場面イメージ・着装行動・着装基準の重視度の全因子において性別・場面の主効果、年齢×場面の交互作用が特に顕著であった。重回帰分析の結果、着装行動に対する場面イメージの影響は「社会的調和と規範」には「フォーマル性」、「自己アピールと流行」には「華やかさ」が大きく、着装基準の重視度の影響は被験者属性により異なる結果となった。